茶のいきも方々よりちりさんじて、よしともあしともいひがたし、うつくしくきれいに、一所よりのみ口こまやかにある所をむかふへなして、香をきく事なり、むかふへなしぬれば、のみ口の方上になるに依て、茶のいきも上へあがり、能いきもきこへ候、前になし、我はなを茶わんの中へのぞき入れば、あせやいらん、はなやいらんと、人目には見ぐるしくて、おとがいに茶のいきかせたるに成候なり、

一亭主茶碗を下に置、湯を入、水をむめ合て、二口三口のむ事なり、其時も客そと禮すべし、此時亭主のむ道理は、茶に毒などの入たる事もあり、其時宜と、一は又後うす茶の時、水のむめかげんを見んためにて侍るなり、

〔茶道織有傳上〕客入の大體

亭主出、茶たつる也、茶たつる時は、ろくに居る事惡し、其うち花などのほうびする也、扨茶をすくふ時、とてもの義に、御茶をこくたてられよなどゝ、あいしらふべし、扨茶出すならば、上客相客へ一禮して、ふくさをひだりの手に去き茶碗をのせ、茶をいたゞき手をさげ、茶碗を少かたぶけ茶の色を見て、扨二口三口もあいそうなし、五口六口はひやうしぬけ、あと人の心なし、あへて定法はなけれども、四口のむはほどよし、扨茶をのみ、茶碗ののみ口手にて少ぬぐいて次へわたす也、扨上客の人、茶を二口ほどのむとき、次の人下座へ一禮して、扨上客茶碗を出す時うけ取いたゞき、禮すみて手をさげ、茶碗を少かたぶけ茶の色を見て、のみ口ちがへぬやうに順々どうゑりまでまはり、茶ののこらぬやうにのみ合て、のみ口を手にてぬぐい、上客の前へ茶碗を置べし、上客茶碗のうちそとよく見て、順々に廻す也、下座まで廻り、又上客の前に置、上客茶碗とふくさを取、亭主茶たて出たる所に置、亭主うけとり前にをく時、總客一同にかたじけなきとて禮をする也、此時御茶の御禮と云はおろかなり、たゞかたじけなきと云もの也、扨亭主其茶碗へ湯を入のむ